

平成23年10月25日

## 附属小学校の学級編制について

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」の一部改正により、公立の小学校では、平成23年度から第1学年に係る学級編制の標準が35人以下になりました。

一方、広島県内の現状では、800人を越す規模の小学校の1学級あたりの児童数は、28人から32人になっています。

これを受けて、広島大学では、附属小学校の学級編制の見直しを行い、下記のとおり変更することとしました。

### 記

1. 附属小学校・附属東雲小学校（単式学級）・附属三原小学校の平成24年4月の新入学児童入学定員を従来の80名から64名（1学級32人）に変更する。
2. 各学年の学級定員を順次学年進行により32人学級に移行する。

### 〈32人学級について〉

平成20年に改訂された新学習指導要領では、あらゆる教科において言語活動が求められています。それにはグループワーク、ペアワークまたは集団活動といったコミュニケーションを介した活用や探求の場を設定することが重要です。

広島大学では、集団・グループ活動の内容と効果的な形態との関係や効果的な指導法に関する研究を継続して進める必要があると考えており、それらの研究を効果的に行い模範となる指導方法を開発するために、ペアワークを基本として、4人、8人など様々なグループ形成が可能となる32人を1クラス定員にすることとしました。

また、これまでの研究成果の蓄積を基に、大学と附属学校が協力してその分野で国をリードする研究、さらにはその成果に基づいた指導の手だてを開発し、公立学校へモデルを提示することを目指しています。

### 【お問い合わせ先】

教育室  
附属学校支援グループ  
濱尾 健  
TEL:082-424-6964、FAX:082-424-6968